

会 議 録

会議の名称	令和6年度 第1回和泉市総合教育会議
開催日時	令和6年5月23日(木) 午後2時00分から午後3時15分まで
開催場所	市役所3階 3A・3B会議室
出席者	<p>[構成員] 辻市長、大槻教育長、深堀教育長職務代理者、酉家教育委員、久米教育委員 中西教育委員、小谷教育委員、</p> <p>[事務局] (教育委員会) 並木参与、辻教育次長兼生涯学習部長、東教育・こども部長、上田教育指導 監、阪下学校教育室長、仲谷教育指導担当課長、鍛冶教育・子ども部次長兼教 育総務課長、大西教育総務課長補佐兼総務係長、吉田教育総務課企画係長、船 曳教育指導担当主事兼子ども政策担当主事、西川教育総務課主事</p> <p>(市長部局) 門林政策企画室長、福田企画経営担当課長、中企画経営担当総括主査</p>
会議の議題	<p>(1) 「教育と福祉の連携」令和6年度の取組みについて</p> <p>(2) 本市における生徒指導上の課題の対応について(非公開)</p>
会議の要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育と福祉の連携」について、令和6年度の取組説明を行った。 ・本市における生徒指導上の課題の対応について、意見交換を行った。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
その他の必要事項	会議公開・傍聴者なし

審 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1. 辻市長から、開会の挨拶

2. 事務局（教育委員会）から「教育と福祉の連携 令和6年度 of 取組み」について説明

3. 意見交換

【小谷教育委員】

- 社会福祉士が週に1度学校へ出向き子どもの様子を確認しているとのことだが、データ等でも状況確認を行っているか。
- 学校にいない日は、Web での打ち合わせを取り入れているのか。
- データ連携システムで支援が必要な子どもについて見える化するということだが、支援が必要か否かについて判断する基準はあるか。
- こどものメンタルヘルス巡回事業について具体的にはどういった事業か。

【事務局（教育委員会）】

- 社会福祉士が学校に行かない日は電話連絡を通じて、情報共有を行っている。
- Web での打ち合わせは行っていないが、必要に応じて配置日以外でも直接学校に行きケース会議などの対応をしている。
- 市役所が保有するデータと健康診断などの学校が保有するデータを連携することで、支援が必要な子どもの傾向をつかみ、見える化を行う。
- こどものメンタルヘルス巡回事業については、大阪母子医療センターの児童精神科医、子育て支援室、学校教育室と一緒に学校に訪問し、対象となる子どもへの対応について、助言を行いながら改善につなげていくもの。

【小谷教育委員】

- 社会福祉士は対応すべきことがかなり多いので、直接学校に行き対応するだけでなく、Web で会議をするなど効率化することで、より質の高い支援につながるのではないかと。

【中西教育委員】

- 子育て支援室と学校教育室との連携がうまくいくか不安であったが、社会福祉士が両室の併任となり、学校現場にも勤務しているということで、うまく連携できる仕組みになっている。
- 担当の社会福祉士任せにしてしまうのではなく組織として対応するために、SSW や CSSW との連携方法について考える必要があるのではないかと。
- 未知のことに挑戦しているので、どのように取り組んでいくかを個人で考えるのではなく、和泉市教育委員会として府全体などに問題提起をしながら、社会福祉士のこれからの仕事のパターンを作りあげてほしい。

【事務局（教育委員会）】

- 社会福祉士任せにしないということは徹底しており、指導主事と CSSW と密に連携を図りながら取り組んでいる。また、泉北・泉南地区の SSW 連絡会でも情報発信していこうと思っている。

【西家教育委員】

○従来の子どものカルテと今から作っていかうと考えているカルテの違いは。

【事務局（教育委員会）】

○これまではそれぞれの部署が必要に応じてカルテを作成していた。これからは、それぞれのカルテを集約し、課題や必要な支援が見えるものを作っていきたい。

【深堀職務代理】

○スクールロイヤーについて、制度としてスタートしたことをうれしく思っている。非常勤のスクールロイヤーは先進的な事例かと思うので、活用する中で出てきた成果や課題の報告をいただきたい。

【久米教育委員】

○今は社会福祉士が1人だが、一人体制での運営構築を考えるのではなく、今後2人、3人と増えていった時の運営を想定し、今から2、3年、数年先を見据えた組織運営の構築を検討して頂きたい。

○事業を継続し、発展していけるように各部署と協力して行ってほしい。

【辻市長】

○社会福祉士として事業を始めての感想を教えてください。

○データ連携事業の今後のスケジュールと予防的アプローチの考え方について教えてください。

【事務局（教育委員会）】

○思っている以上に学校が不登校やいじめ、虐待の課題を抱えており、先生方が気になる子どもに対してアンテナを高く持ち、些細な変化をつかんで対応している。適切な支援と子どもたちが安心・安全に学校生活を送れるよう、関係機関と一緒に取組める体制を構築していきたい。また、学校に配置されているSSWの活用方法やSSWからの情報集約方法について整理し、学校支援体制の更なる充実に努める。

○データ連携事業については9月までに関係部署との調整と、学校データの収集を行う。10月からはそのデータを活用し支援していく。

○予防的アプローチについては、市で保有している情報を活用し、まだ把握していない支援が必要な子どもに対して早期の支援につなげていきたい。

【辻市長】

○データはうそをつかないので、しっかり分析して成果につなげて行ってほしい。

○学校現場からどのような事案に対してスクールロイヤーに助言をもらいたいと要望があると想定しているか。また、どのように相談業務をすすめていくのか。

【事務局（教育委員会）】

○いじめ事案や学校事故、児童虐待や不登校児童対応などあらゆるジャンルにニーズがあると考えている。

○スクールロイヤーとして早期の段階から学校関係者からの相談を受けることで、生徒指導上の課題の深刻化防止を図っていきたい。

○相談方法としては、学校から市教育委員会へスクールロイヤーの活用申請を行い、市役所や弁護士事務所での相談や、学校現場への派遣も想定している。

【辻市長】

- 子どもを取り巻く環境を福祉でカバーすることで、教育を受ける機会の確保につながると考え、社会福祉士を配置した。
- 社会福祉士任せにするのではなく、チームで取り組んでほしい。

【小谷委員】

- スクールロイヤーを配置したことの効果測定について、費用面も含めて行ってほしい。

【事務局（教育委員会）】

- 学校からアンケートを取るとなど効果検証は行っていきたい。

4. 「(2) 本市における生徒指導上の課題の対応について」の意見交換

(非公開)

【事務局】

- 以上をもって、令和6年度第1回和泉市総合教育会議を終了する。

< 終了 >